



現状分析・問題抽出

課題一覧の掲載情報や課題提供者へのヒアリング、生活者としての意識等からこの課題をどのように捉えるか？

▶ 現状について

植田は、多くの史跡や文化物を有しており、大分市内でも三番目に人口が多い地域である。
現在は、植田を形成する、稲田、宗方、横瀬、東植田、寒田、数戸、鷺乃、賀来の8つの校区の特色や活動などを紹介する「我がまちわさだ我が校区」と、自治区の歴史や自治会の活動を紹介する「我がまちわさだ自治区のあゆみ」の二つの歴史書を発行し、全自治会や小中学校に配布している。

▶ そのままの問題はどこにあるのか

多くの史跡や文化物を有していることが認知されていないこと、そして、「地域についてほとんど知らないまま暮らしている人が多い」という点を特に問題視している。
要因としては、移住してきた世帯が、地域の活動や歴史、史跡や文化物に触れる機会が少ないせいではないか。それならば植田について知る機会を増やし、植田を「我がまち」と感じてもらうことが重要なのではないかと思う。

ビジョン

そもその問題を解決するためには、どのような状態になることが望ましいと考えるか。

植田の歴史や活動に触れるきっかけとして、この歴史書を手に取り、開きたくるような表紙のデザインが望まれる。また、表紙と本文にギャップがなく、親しみやすいデザインや文体が統一されているとともに編集・デザインに読者が興味を持てるような工夫があることが望ましい。
小中学生をターゲットにすることで、学校や家庭でも話題にあがっていく話題性があることが望ましいと思う。そのためには、イラストやゲーム性のある内容の構成が必要なのではないか。

プランニング

問題を解決するためのアイデアや、その先のビジョンを実現するためのプラン。

植田で暮らしている際、植田をアピールするようなチラシやポスターなどを目にするのは少ないと考える。そのため、植田に住んでいても植田についての広報物を見ることのできるように、地域の掲示板などに、我がまちわさだ歴史書の表紙を元にしたデザインのポスターを掲示することや、同時に我がまちわさだ歴史書の販売広告も掲示するなどの広報活動を行うと良いと考える。

デザインコンセプト・提案のポイント

アイデアやプランを実践するためのデザインの役割や問題解決のためのポイント。

よく知られている、親しみのある眼鏡橋や、まつり行事の写真などを挿入することで、親しみやすさを、文化物や史跡の写真を挿入することで、歴史書らしさを感じられるようなデザインにした。
グラデーションをかけることで、柔らかさを感じられるようにした。
"わ"だけ大きく、幼さを感じる特徴的な形にすることで、小中学生の目を引くようにした。